

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
東日本大震災・復興支援関連研究（共同研究型）
2011年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	立教大学社会学部・教授		間々田 孝夫 印	
研究課題	震災被害の格差に関する統計的社会調査による実証研究 ー震災被害と社会階層の関連			
研究組織	所属大学名等・職名		氏名	
	立教大学社会学部・准教授		村瀬 洋一	
	立教大学社会学部・助教		林 雄亮	
	立教大学社会情報教育研究センター・助教		金澤 悠介	
研究期間	2011 年度		～	2013 年度
研究経費	2011 年度	2012 年度	2013 年度	総計
	3000 千円	3000 千円	2888 千円	8888 千円

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

どのような人々が経済的、精神的打撃を受けたのかについて、災害研究と社会階層研究における、これまでの研究成果を踏まえつつ、仙台市において無作為抽出を行い2100人を対象とした統計的社会調査を実施した。有効回収数は1532人（回収率73%）だった。被害としては、財産の損害や収入減少など経済的な被害と、これまでの生活の変化、精神的な不安感などの側面について質問項目を設けた。社会構造と震災による被害の関連、人々の社会意識や生活の変化について、東北大学と協力しつつ11月に調査を実施した。1月までにデータ入力を終えて、調査速報を作り、回答者の方には郵送で送付した。調査結果は社会学部ホームページ上に掲載した。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[災害研究] [社会階層構造] [統計的社会調査]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

東日本大震災による被害は、全ての人々に均等に生じたわけではなく、人により、経済的損害も生活の変化も、様々な違いが存在する。特に階層による偏りがあるかどうかは注目される。日本は高度成長期以降平等な社会と言われてきたが、最近では各種の格差が指摘され、社会階層論の分野で、経済的な面だけでなく様々な不平等や、格差に関する研究が行われている。このような階層間の不平等、格差が、震災の被害とどのように関連しあうのかは重要な研究テーマである。

しかし、今回の震災について、直接に激しい被害を受けた被災地や避難所における調査は盛んに行われているものの、広範囲でどのような被害があったのか、どのような人々がどの程度の被害を受けたのかについて、本格的な社会調査を行った例はほとんどない。

そこで本研究では、どのような人々が経済的、精神的打撃を受けたのかについて、災害研究と社会階層研究における、これまでの研究成果を踏まえつつ、東北地方の中核都市である仙台市において、東北大学と協力しつつ、2100人を対象とした統計的社会調査を11月に実施した。有効回収数は1532人(回収率73%)だった。

そこに至るまでの経過を述べると、まず8月以降、調査票の作成を行い、また調査実施体制について、東北大学情報科学研究科の河村和徳准教授などと連絡をとりながら検討した。(河村准教授は、のちに研究分担者に加わった。)

主な調査項目は次の通りであり、これらの項目を通じて、震災の実態について具体的に把握し、年齢別や階層別に、被害にどのような違いがあるかを解明しようとした。

- ・震災による被害(住宅、職場、器物破損、近親者のケガ、死亡)
- ・震災時の体験や困難さ
- ・震災後の生活の変化
- ・震災後のストレス、精神状態
- ・震災復興についての意見
- ・現状の暮らし向きと今後の暮らし向き
- ・震災による収入の変化
- ・生活満足感、基本的な社会意識
- ・ボランティア活動への参加など
- ・近所付き合い、地域の間人関係
- ・放射能への不安感
- ・本人の交通や生活上の困難、何日くらい停電したか等
- ・年齢、学歴、職業など基礎的項目

9月には選挙人名簿を用いて、数百人規模の予備調査を実施し、その結果をもとに調査票の再検討を行なった。

11月からの本調査では、選挙管理委員会が公表している仙台市の人口分布をもとに、11月に仙台市内で70の調査地点を抽出し、各30人の個人を、学生が現地へ行き現地で家を見つつランダムに抽出して、2100人の対象者名簿と地図を作成し、調査依頼状をポストに投函した。選挙人名簿を用いると、最近、仙台市内に引っ越した人が抽出されず、家の被害のため実際には住んでいない人が抽出されるなど、問題が起きるため、本調査では選挙人名簿での抽出は行わず、現地での抽出(エリア・サンプリングによる二段無作為抽出)とした。なお、仙台市の105万人のうち、津波が来た沿岸部は元々5千人が住んでいたが、既に避難して住民がほとんどいないため、人口分布を元に無作為抽出をした場合には選ばれる地域はない。調査票配布と回収は11月23日以降に実施し、比較的順調に回収作業を終え、回収率も良かったと言える。東北大学の学生を70人以上調査員として雇い、調査会社には委託せず直接管理し、データの質は良い。調査中は管理者が各調査地点を巡回し、回収が困難な地点では本部要員が応援に行くなどした。その後、1月までにデータファイル作成と基礎的な分析を終えた。回答者の方に調査速報を2月までに郵送で送付した。

研究【経過・成果】の概要 つづき

このような社会調査プロジェクトは、調査実施後から分析開始までには、通常かなりの時間がかかるが、今回は既に一通りデータ入力を終えている。調査の結果、人々の今後の生活への不安感が強いこと、国への不信感が強いこと、仙台市においても、業者による自宅修理が必要な人が4割以上いること、停電日数は10日前後が多いことなどが分かった。貯金や財産を切り崩している人も2割ほどいる。レジャー費の切りつめは3割ほどであり、消費への影響があることが予想される。友人や知人に死者が出たという人は2割以上いて、精神的な影響があったことも考えられる。

その他、本格的な分析はまだこれからだが、今後ほとくに被害と社会階層の関連に着目しつつ分析する予定である。

われわれの主な仮説は、社会的地位が低くなるほど震災の被害が大きいということである。人々は、財産や学歴や威信など、各種の社会的資源を保有するが、資源をあまり持たない、社会的地位の低い者が、災害時には今後の保障も少なく、生活困難に陥りやすいことが予想される。そして、日本の場合、とくに企業規模の影響が大きく、小企業従事者や自営業の者ほど生活が不安定になったのではないかと思われる。

経済的な困難については、大企業勤務者や公務員よりは、中小、零細企業、自営業の方が、生活に困ることが多く、おそらく不安感も強いと思われる。震災からある程度時間が経過した後も、取引先の倒産による収入減少や、事業の失敗などの可能性もあるだろう。社会的地位や職業の変化もありうる。(この点については、2012年度パネル調査により分析することを予定している。)

精神的な不安については、地震の後、夜眠れない、毎晩泣いているという人も多い。地域での大きな被害を見た人や、親戚や知人の困難に接した人、遺体を見た人など、精神的に打撃を受けた人もいる。しかし、特定地域でなく、大規模な社会調査による実態の結果、階層の低い者ほど精神的不安も強いという結果が得られる可能性がある。

このように生活上の経済的困難や心理的不安感を感じているのは、どのような人達かを解明することは、今後の復興支援のためには、極めて重要である。今までの援助は、ピンポイントで歴然とした被害のあった人に向けられたが、長期的には軽微の人も含めて被害の全体像を把握し、適切な対象に適切な対策をとらなければならない。本研究は、そのための基礎的なデータを提供することになるであろう。データが完成して基礎的な分析を終え、データのチェックが終わり次第、研究者に対してデータを公開する。

他方、われわれ研究グループは、これらの仮説について、更なる分析を行い、学術論文にまとめることを目指す。

今後は、立教大学や東北大学にて、分析結果の検討のために研究会を行い、結果を十分に検討する。既に東北社会学会から7月の学会大会にて発表することを依頼されている。また、行動計量学会の9月の大会でも震災に関する調査についての部会を組む予定である。何らかのシンポジウムを行うことも検討中である。今後は、学術論文の作成、調査報告書の作成を行い、学術書として出版することについても検討を開始する。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④その他

このような社会調査プロジェクトの性質上、本格的な分析はまだこれからなので、特に発表した成果はないが、既に基本的な分析は終えて、結果速報を調査対象者に郵送でお送り済みである。

また、調査結果の一部が2月12日の河北新報に取りあげられた。仙台市等にも、東北大経由で調査結果が伝わっている。

今後は、学会発表や論文作成などを積極的に行う予定である。

上記のように既に学会から依頼されているものもある。

なお、社会学部ホームページ上に基礎的な分析結果を掲載している。

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/murase/s11/sokuho1.htm>